

第 3 回伊東市新図書館基本構想策定委員会

諸室構成の検証とゾーニングについて

目次

諸室構成の検証とゾーニングについて	1
1 これまでの検討内容	1
1-1 第2回策定委員会	1
1-2 新図書館基本構想策定に向けた市民ワークショップ（第2回）	1
2 諸室構成の検証	7
2-1 ワークショップの内容を受けて	7
3 ゾーニングの検討	13
3-1 ゾーニングの考え方	13
3-2 各フロアのゾーニング案	14

諸室構成の検証とゾーニングについて

1 これまでの検討内容

1-1 第2回策定委員会

第2回策定委員会では、平成30年度に実施された地域タウンミーティング、未来ビジョン会議、大池小学校総合学習で検討された内容及び令和2年度に実施された第1回市民ワークショップ、小学生ふるさと教室での意見を基に以下の結論を得ました。

コンセプト：『夢と未来を育む図書館』～ひとりひとりの創造拠点（案）～

国内外から多くの人々が訪れる「国際観光温泉文化都市」伊東の知・文化・歴史を収集記録し、内外に発信し続けることで、シビックプライドの醸成と文化や知の発展に寄与する事はもちろん、伊東市の未来を担うひとりひとりが夢を育み、未来を育む事ができるような創造拠点として、この図書館があるから伊東市に行ってみたい、住んでみたい、住んでいたいと思えるような図書館を目指します。

- サービス内容：① 交流機能
② 一般コーナー機能
③ 伊東市情報センター機能
④ 児童コーナー機能
⑤ ティーンズコーナー機能
⑥ 生涯学習センター機能
⑦ ICT機能

目標蔵書冊数：33.3万冊（開架50%程度）

目標面積：5,700㎡、6,200㎡、7,200㎡の3パターン程度

1-2 新図書館基本構想策定に向けた市民ワークショップ（第2回）

10月18日（日）に第2回伊東の「未来を拓く」新しい図書館をつくろう市民ワークショップを開催しました。

新図書館基本構想策定に向けた市民ワークショップ（第2回） 開催概要

日時：10月18日（日）13：30～16：00

参加者：34名（一般19名、高校生6名、中学生9名）

※一般は、市内在住・在勤・在学の方（高校生以上）を公募

高校生、中学生は学校推薦

ディスカッションテーマ：

わたしの〇〇拠点でしたいこと、必要なものを考えよう



図 1-1 ワークショップの様子

第2回市民ワークショップでは、第2回策定委員会で提案されたコンセプト「夢と未来を育む図書館～ひとりひとりの創造拠点～」を基に“ひとりひとり”を自分に置き換え、“わたしの〇〇拠点でしたいこと、必要なものを考えよう”をテーマに意見交換を行いました。

ひとりひとりが考える自分にとっての「拠点」、その「拠点」で「具体的にしたいこと」、そしてそれを実施するために「必要な諸室やスペース」について多くの意見が出されました。

それぞれのグループから出された意見を整理したものを以下に記載します。

▶ 一般Aグループ

① 集中・勉強・仕事拠点

個室に分かれ、仕事や勉強、あるいは絵を描くなどの作業に静かに集中できるワーキングエリアです。長時間座っていても疲れない座り心地の良い椅子、参考書や資料が広げやすい広い机、Wi-Fiを完備します。

② 気軽さ・くつろぎ・暇つぶし拠点

上記の集中・勉強・仕事拠点で、じっくりと作業に集中したあとに疲れた頭をリフレッシュするエリアです。ゆったりとくつろげるカフェ、天気の良い日には風にあたりながら快適に過ごせる庭やテラスも隣接されています。そして気軽に入りやすい建物とし、街の中にも分館を設けるなど、街と一体化します。

③ 新たなアイデアや考えにふれる・宝探し・発信拠点

知らなかった本に出会える、興味のあるジャンル以外も見たくなるようなしつらえ、あるいは宝探しのように本を探すようなしつらえといった、これまででは出会えなかった本に出会える様々なレイアウト構成を持つエリアです。また、利用者同士でのおすすめ本の紹介、異業種交流会や他校の生徒との交流ができるスペース、仕事や趣味などに関して何でも発信できる掲示板などがある情報発信スペースも設置します。

④ 仕事と子育て・子育てコミュニティ拠点

雨天でも過ごせるキッズスペースや、読み聞かせなどのイベントが可能な子どもエリアです。「子どもと遊ぶのが大好き！」という市民との協働により、子どもを預け、保護者もゆっくりと本を選んだり、カフェでくつろいだりリフレッシュできるよう、支援室や保育スペースが設置されています。また、すぐ隣にある庭には、児童遊具が設置された公園もあります。

⑤ 趣味・活動・交流拠点

得意なジャンルに特化したスペシャリストと一緒に活動できるようなワークショップスペース、漫画などを持ち込み、友達とおしゃべりしながら気軽に過ごせるスペースなどがあるアクティブエリアです。好きなことや趣味を通じて、人と人との交流や活動を深めることができます。

▶ 一般Bグループ

① 静かな空間・読書・学習・くつろぎ拠点

衝立で仕切られた一人用の静かな机で、あるいは座り心地の良いソファやクッションなどでゆったりと静かに読書ができるエリアです。足湯なども設置し、様々な世代がくつろぎながら過ごすことができます。

② デジタル・IT・創作・発信拠点

PC やタブレットとともに、画像編集ソフトや映像編集ソフトなど創作に必要なツールを備えた一人で集中して作業ができる創作エリアです。フリーペーパーや同人誌なども作成できるよう、印刷機なども備え、作成したものは館内で販売することもできます。

③ わくわく・出会い拠点

タイトルを見ながらわくわくできる、書店のようにテーマごとにセレクトされた本や音楽と出会え、本好きの仲間と偶然会えるカフェが設置されているエリアです。本の持ち運び用に便利なカートを用意するなどのサービスにより利便性を向上させます。

④ アート・デザイン・絵本・創作拠点

かわいい絵本やビジュアル本などデザイン性の高い書籍を取り揃えたティーンズルーム、児童文学、デザイン、アートブックなどについて調べることが出来るスペース、作家の講演会だけでなく、作家と読者あるいは作家同士が交流できるスペースや、レベルの高い展示が開催できるギャラリーのあるエリアです。

⑤ 語学・国際交流拠点

外国人も含めた観光客とのフリートークルーム、高校生による英語ラボの開催、海外の作家の誘致といった国際交流のための機能を持ったエリアです。

⑥ 語り・昔話・民話・大人も読み聞かせ拠点

地域の高齢者による戦争体験や伊東の歴史を語るイベント、方言を聞いて地域を知ることのできるイベントや、くつろぎながらティーンズから大人までが読み聞かせや読書会などを実施することができる、大人向けの声を出しても良いエリアです。

⑦ 音楽活動の拠点

楽譜やCD、DVD を取り揃えているほか、BGM が流れ、ピアノを弾くことが出来る練習室やミニコンサートが開催できるエリアです。

⑧ まちづくり

カフェや書店、古本屋を周囲に誘致して、図書館を起点とした賑わいのあるまちづくりをします。マイナンバーカードを使用することで様々な方の利便性を向上させたり、返却したい書籍をカフェで預かってもらえたりと街全体と一体化したサービスを行います。

▶ 一般Cグループ

① 郷土について知る・古文書を読む拠点

伊東市だけでなく、伊豆半島全体の郷土資料を集めた郷土エリアです。郷土資料は音声ガイドサービス付きで、誰にでもわかりやすく理解できるよう工夫がなされています。また、伊東市文化財管理センターと連携し、縄文土器を展示する博物館スペースもあります。

伊東市全体の図書や情報の拠点となるべく、伊東を舞台にした小説や映画も収集するほか、市内の郷土資料を収集し、専門家による郷土資料の読み方についての講習会も開催し、市民に郷土資料についての知識を深めてもらいます。

② 高齢者や乳幼児の保護者にやさしく、相談・くつろぎ拠点

乳幼児が一緒でも参加できる講演会や、高齢者でも読みやすいよう文字の拡大ができる電子書籍のコーナー、具合が悪くなった利用者が休める保健室や、ゆったりと疲れをほぐせる足湯コーナーがあるエリアです。

身体へのやすらぎだけでなく、心の悩みの本を項目別にならべたコーナーや、専門家による相談室もあります。

③ 知識を磨き、深める・文化的活動・情報収集拠点

壁面を活用したギャラリースペースを設置し、アートや写真などが飾られ、専門家から展示などに関するトークが聞けるエリアです。

ブース形式のパソンスペースでは、インターネットによる情報収集や検索結果を印刷するプリンターも備えるほか、貴重な古いDVD・CDも取り揃え、それらを視聴できるコーナーも隣接されています。

小規模のステージを備えた屋外広場では屋外イベントも開催され、文化的活動の発表の場として利用ができます。

④ 防災・安心安全・夜間の居場所拠点

防災施設として使えるよう、防災グッズを収納する備蓄庫や、安心して本が読めるよう、衛生的な管理が出来る部屋が用意されているエリアです。夜間の居場所としての機能を保有するため、開館時間を20時までとします。

⑤ 展示・図書館教育拠点

充実したおはなし会を開催したり、小学校入学と同時に図書館の利用マナーをレクチャーする図書館教育に関連したエリアです。絵本の表紙を見せて配架できる書棚や子どもたちが自由に参加できる多目的スペースがあります。

⑥ 市内民間図書館との連携・サテライト・アクセスの向上

民間図書館、コミュニティセンター図書室、学校図書館などとの連携を図るほか、図書の貸出、返却の市の出張所での実施、移動図書館「ともだち号」のさらなる活用、シャトルバスの運行などによるアクセス向上、

現行のおはなし会や展示を各地域でも行う出張サービスの実施のほか、電子図書館の導入により、自宅からでも図書にアクセスできるサービスを実施します。

▶ 高校生グループ

① 勉強・学習・仕事拠点

勉強、仕事などができるエリアです。個人での利用、グループでの利用どちらにも対応できるよう、静かな個室と話しても良いグループ学習室を備えています。また、Wi-Fi やコンセント設備を完備し、飲食可能なスペースも隣接しています。

② 自由・癒し・リラックス拠点

様々な過ごし方を提供し、利用者それぞれが自由にくつろぐことができるエリアです。座り心地が良いソファで空や海を見ながらリラックスしたり、寝ながら星を見ることができるプラネタリウム、足湯に入りながら読書できる空間、自分の好きな態勢で読書ができる畳室、勉強の合間に飲食できるカフェなどがあり、利用者自身が好きな場所でくつろぐことができます。

③ 安全拠点

地域の安全拠点として、災害が起きても安心できるよう、備蓄品を揃えた倉庫などの防災エリアです。

④ 娯楽・楽しめる拠点

自分の趣味や遊びに関するエリアです。ボードゲームや身体を動かせる娯楽室などで普段交流できない人と活動することができます。

⑤ 子どもエリア

乳幼児連れの親子のために託児所を設置するほか、保護者と小さな子どもが遊べるエリアです。

▶ 中学生 A グループ

① 勉強・自主学習・学び拠点

PC を使用した e-ラーニングや、集中して勉強ができる個別の学習スペースです。最新版の参考書を集め、自由に利用できる部屋も用意されています。

② 息抜き・癒し・くつろぎ拠点

ゆったりとリラックスして、ときには寝ながら本や漫画が読めるよう、座り心地の良いソファやクッションが用意されたくつろぎエリアです。階段を昇れば大室山が一望できる屋上に繋がり、ペットと一緒に過ごせるスペースもあります。

③ 他校生徒との交流・コミュニティ・遊び拠点

読んだ本について感想を述べあったり、部活動などを通じて他校生との交流などができるコミュニティエリアです。ボードゲームやテレビゲームなどが置かれ、ツールを通して新しい出会いを生みだします。友人とおしゃべりしながら勉強をしたり、本を読んだりなど、自由に過ごせるフリースペースには Wi-Fi も完備します。図書館で出会った気になる本や文具なども購入できるショッピングコーナーや、リラックススペース付きの映画館も併設されています。

④ 運動拠点

みんなでワイワイ楽しく身体を動かせるスポーツエリアです。テニスコートやバスケットゴールも併設されています。

⑤ どこにいても借りられる

移動手段を持たず、なかなか図書館を訪れられない利用者でも気軽に本を借りられるよう、移動図書館「ともだち号」のさらなる活用を行います。

▶ 中学生Bグループ

① プライベート・学習拠点

個室など個人のスペースを確保し、勉強できるエリアです。また、Wi-Fiも完備しており、インターネットを使いながら学習ができます。

② くつろぎ拠点

人の目を気にせずに、ひとりでくつろいだり、休息したりできるエリアです。ソファ、クッションなどでくつろげる空間を生み出し、本を読むなど各々が好きなことを楽しめます。また、飲食可能なスペースやカフェが併設されています。カフェに併設する売店では、図書館にある図書を購入することもできます。

③ 学び拠点

友人と話すことのできるエリアです。フリースペースや声を出しても良いグループ学習室で、友人と教えあいながら学習することができます。また、伊東のことについて知ることができる郷土資料・展示室を備えます。

④ 運動・遊び拠点

多人数で体を動かすことができる体育館のような屋内スペース、ゲームで遊ぶことのできるプレイルームなど、友人と交流ができるエリアです。おしゃべりや運動、ゲームを通して交流を深めることができます。また、これらのスペースを近くに設定することでより人々の交流や活動を活発にすることができます。

⑤ アクセスの向上

思い立ったときにすぐに行けるようにシャトルバスの運行など交通アクセス向上を実現します。

2 諸室構成の検証

2-1 ワークショップの内容を受けて

(1) ワークショップで出た主な意見

前項のように、第2回市民ワークショップにおいて様々な年代の参加者から、多くの積極的な意見が出されました。全般的な傾向としては、静かな読書スペースや郷土資料関連の図書館本来のスペースに加え、活動や交流、創作、くつろぎ、出会いといった、新図書館を街の活動拠点と捉えたスペースについての意見が多く寄せられました。

意見として出された活動内容は、これまで検討してきたスペースの活用法として、今後反映させていきますが、それ以外に新たに必要なスペースとしていくつかの意見が出されました。これらについてはこれまでの7つの拡充機能から大きく外れるものではないものの、導入するか否かは検討していく必要があります。

新たなスペース：ラウンジスペース、足湯、プラネタリウム、ペットスペース、コワーキングスペース、博物館スペース、キッズスペース（児童遊具）、プレイルーム（娯楽室、ゲームコーナー）、映画館、体育館（テニスコート、バスケットゴール）、ギャラリー、小規模ステージ付屋外広場、備蓄庫、シャトルバス停車場

表 2-1 ワークショップで出された活動内容とそれを実施するためのスペース

大分類	ワークショップで出た内容	意見として出されたスペース
①交流機能	—A② 気軽さ・くつろぎ・眠つぶし拠点	庭、テラス、カフェ
①交流機能	—B①（静かな空間・読書・学習）・くつろぎ拠点	ソファ・クッションスペース（= ラウンジスペース ）、 足湯
①交流機能	高② 自由・癒し・リラクセス拠点	ソファ・クッションスペース、 プラネタリウム 、 足湯 、カフェ
①交流機能	中A② 息抜き・癒し・くつろぎ拠点	ソファ・クッションスペース、屋上、 ペットスペース
①交流機能	中B② くつろぎ拠点	ソファ・クッションスペース、売店、カフェ
①交流機能	—B⑤ 語学・国際交流拠点	国際交流スペース
①交流機能、②一般コーナー機能 ⑦ICT機能	—C② 高齢者や乳幼児の保護者にやさしく、相談・くつろぎ拠点	電子書籍コーナー、保健室、 足湯 、相談コーナー
①交流機能、②一般コーナー機能 ③伊東市情報センター機能	—A③ 新たなアイデアや考えにふれる・宝探し・発信拠点	特徴的なレイアウト、情報発信交流スペース
①交流機能、②一般コーナー機能	—B③ わくわく・出会い拠点	特徴的なレイアウト、カフェ
②一般コーナー機能	—A① 集中・勉強・仕事拠点	個室、ワーキングルーム（= コワーキングスペース ）
②一般コーナー機能	—B① 静かな空間・読書・学習・くつろぎ拠点	個室
③伊東市情報センター機能	—C① 郷土について知る・古文書を読む拠点	郷土資料コーナー、 博物館スペース
③伊東市情報センター機能	—B⑥ 語り・昔話・民話・大人も読み聞かせ拠点	大人向けの声を出して良いエリア
④児童コーナー機能	—A④ 仕事と子育て・子育てコミュニティ拠点	キッズスペース 、読み聞かせ、保育室、 児童遊具
④児童コーナー機能	高⑤ 子どもエリア	託児所、 遊べるスペース
④児童コーナー機能	—C⑤ 展示・図書館教育拠点	特徴的な児童書架、多目的スペース
⑤ティーンズコーナー機能	高① 勉強・学習・仕事拠点	個室、グループ学習室
⑤ティーンズコーナー機能	中A① 勉強・自主学習・学び拠点	個室、参考書
⑤ティーンズコーナー機能	中B① プライベート・学習拠点	個室
⑤ティーンズコーナー機能 ③伊東市情報センター機能	中B③ 学び拠点	フリースペース、グループ学習室、郷土資料
⑤ティーンズコーナー機能	高④ 娯楽・楽しめる拠点	ボードゲーム、 娯楽室
⑤ティーンズコーナー機能	中A③ 他校生徒との交流・コミュニティ・遊び拠点	ゲームコーナー 、ショップ、 映画館
⑤ティーンズコーナー機能	中A④ 運動拠点	テニスコート 、 バスケットゴール
⑤ティーンズコーナー機能	中B④ 運動・遊び拠点	体育館 、 プレイルーム
⑥生涯学習センター機能	—A⑤ 趣味・活動・交流拠点	ワークショップスペース、交流エリア
⑥生涯学習センター機能	—B② デジタル・IT・創作・発信拠点	画像編集ソフトなどを備えたPC室、印刷室
⑥生涯学習センター機能	—B④ アート・デザイン・絵本・創作拠点	アートコーナー、交流スペース、 ギャラリー
⑥生涯学習センター機能	—C③ 知識を磨き、深める・文化的活動・情報収集拠点	ギャラリー 、PC室、 小規模ステージ付屋外広場
⑥生涯学習センター機能	—B⑦ 音楽活動の拠点	視聴覚コーナー、音楽スタジオ、ミニコンサートホール
防災	—C④ 防災・安心安全・夜間の居場所拠点	備蓄庫 、衛生的な部屋
防災	高③ 安全拠点	備蓄庫
市域全般サービス	—B⑧ まちづくり	
市域全般サービス、⑦ICT機能	—C⑥ 市内民間図書館との連携・サテライト・アクセスの向上	
市域全般サービス、⑦ICT機能	中A⑤ どこにいても借りられる	ともだち号車庫、 シャトルバス停車場
市域全般サービス	中B⑤ アクセスの向上	シャトルバス停車場

※赤字は新たなスペース

(2) ワークショップを反映した3パターンの面積表

参考までに前項のスペースを入れ込んだ場合の想定面積ボリュームを算出します。第2回策定委員会で打ち出された、施設目標面積約5,700㎡、6,200㎡、7,200㎡の3パターンのうち、ゆったりとした空間を保ちつつ、しっかりとした閉架も備えた6,200㎡をベースとし、検証します。

その結果、①新たなスペースをすべて入れ込んだ場合は7,500㎡、②新たなスペースのうち機能的に近い図書館スペースや、生涯学習センタースペースと融合を図った場合（プラネタリウム、映画館などは小ホールが兼ねるなど）は6,200㎡となります。さらに③各スペースを多目的に活用した場合5,300㎡程度でも機能的には実現できることが分かります。

全体の面積や導入するスペースについては、これまで検討してきた内容を基に建設工事費や維持管理費用、運営管理費など、今後かかる費用とも精査しながら、引き続き検討を重ねていきます。

➤ ①新たなスペースをすべて入れ込んだ案 7,500㎡

これまで検討してきたスペースに加え、コワーキングスペース、ラウンジスペース、キッズスペース、ワークショップスペース、ギャラリー、プレイルーム、足湯、ペットスペース、プラネタリウム、映画館、体育館、博物館スペース、備蓄庫といった新たなスペースを盛り込んだ案です。

➤ ②新たなスペースを図書館・生涯学習センターと融合した案 6,200㎡

コワーキングスペース、ラウンジスペース、ワークショップスペースなどこれまで検討してきたスペースと機能的に重なるものは統合し、かつプラネタリウム、映画館などは小ホールで事業として実施することで新たなスペースとして設けず、また屋外に設置することが可能なものは、屋外での今後の検討事項とした案です。

➤ ③各スペースを多目的に活用した案 5,300㎡

さらに各スペースを多目的に活用（印刷等創作室、PC創作ルームを美術工芸室と統合するなど）した案です。

➤ ①新たなスペースをすべて入れ込んだ案 7,500 m²

構成部分		スペース	算定根拠	
①一般図書ゾーン				
検索端末台				8台
自動貸出機				9台
自動返却機				3台
一般開架スペース			4段書架を配置 (35冊/段)	82,000冊
一般閲覧スペース			閲覧机 (通路幅1200mmで配置)、スツールを配置	100席
一般開架余裕度				
ティーンエイジ資料スペース			書架間隔1,800mm4段を配置 (35冊/段)	10,000冊
ティーンエイジ閲覧スペース			閲覧机 (通路幅1200mmで配置)、スツールを配置	30席
ティーンエイジスペース余裕度				
グループ学習室				25席
地域資料・参考資料スペース			3段書架を配置 (20冊/段)	13,000冊
地域資料・参考資料スペース			閲覧机 (通路幅1200mmで配置)、スツールを配置	40席
地域資料・参考資料スペース余裕度				
視聴覚資料スペース			4段書架を配置 (50本/段)	3,500点
視聴覚スペース			一般的なPCブースを使用	10席
視聴覚スペース余裕度				
雑誌コーナー			雑誌 (バックナンバー含む)	160誌
新聞コーナー			新聞 (バックナンバー含む)	20紙
ブラウジングスペース				30人
ブラウジングスペース余裕度				
展示コーナー				
展示コーナー(郷土資料)				
予約本コーナー			2500冊程度	
対面朗読室				
学習室				80席
サービスカウンター				6人
一般図書ゾーン計		1,800 m ²		105,000冊
②こども図書ゾーン				
検索端末台				1台
自動貸出機				1台
自動返却機				1台
児童開架スペース			3段書架を配置 (45冊/段)	58,000冊
児童閲覧スペース			円形テーブル・傾斜読書台を通路幅1200mmで配置	50席
視聴覚資料スペース			4段書架を配置 (50本/段)	1,500点
視聴覚スペース			一般的なPCブースを使用	10席
視聴覚スペース余裕度				
おはなし室			絨毯敷きで座って話を聞くことを想定	40人
託児スペース			託児一人あたり3.3m ² を想定	15人
サービスカウンター				3人
児童スペース余裕度				
こども図書ゾーン計		850 m ²		58,000冊
開架エリア合計 (①+②)		2,650 m²		
③ボックススペース等				
事務室				20人
会議室等			会議室、休憩室、ロッカー等	
閉架書庫スペース			通路幅900mmで6段の移動式書架を配置	170,000冊
作業スペース			書庫の20%	
ボックススペース余裕度				
移動図書館駐車場・倉庫				
全体の余裕度			廊下、階段、EV、トイレ等	
ボックススペース等計		1,350 m ²		170,000冊
図書館エリア合計 (①+②+③)		4,000 m²		333,000冊
④生涯学習センター機能				
小ホール (元視聴覚室)				200席
ホール控室				
第1多目的室 (元第1会議室)				100席
第2多目的室 (元第2会議室)				30席
第3多目的室 (元第1研修室)				30席
第4多目的室 (元第2研修室)				30席
第1和室				30席
第2和室				30席
美術工芸室				30席
展示兼トレーニング室				40人
生涯学習センター余裕度				
生涯学習センター合計		1,550 m²		
図書館+生涯学習センター合計		5,550 m²		
⑤その他				
カフェ・ショップ	250 m ²			
音楽スタジオ	40 m ²			
印刷等創作室 (前回ファブスペース)	20 m ²		印刷機やその他工作機器を配置	
PC創作ルーム (前回ファブスペース)	30 m ²		画像編集ソフトなどを備えたPC個室	
キッチンスペース	50 m ²			
コワーキングスペース	50 m ²		一人で集中できる個室	10席
ラウンジスペース	50 m ²		くつろげるソファなど	20席
キッズスペース	100 m ²		児童遊具なども設置した子どもが遊べるスペース	
ワークショップスペース	60 m ²			30席
ギャラリー	100 m ²			
プレイルーム	100 m ²			
足湯	20 m ²			
ペットスペース	50 m ²			
プラネタリウム	150 m ²			
映画館	150 m ²			
体育館	200 m ²		テニスコート	
博物館スペース	100 m ²			
備蓄庫	100 m ²			
その他余裕度	330 m ²			
その他ゾーン計		1,950 m ²		
総合計面積		7,500 m²		

※赤字はWSで出た新たな機能

※青字はWSでも必要であると意見のあった機能

※庭、広場などは施設外のため面積に加えていません

➤ ②新たなスペースを図書館・生涯学習センターと融合した案 6,200 m²

構成部分		スペース	算定根拠	
①一般図書ゾーン				
検索端末台				8台
自動貸出機				9台
自動返却機				3台
一般開架スペース			4段書架を配置 (35冊/段)	82,000冊
一般閲覧スペース			閲覧机 (通路幅1200mmで配置)、スツールを配置	100席
一般開架余裕度				
ティーンエイジ資料スペース			書架間隔1,800mm4段を配置 (35冊/段)	10,000冊
ティーンエイジ閲覧スペース			閲覧机 (通路幅1200mmで配置)、スツールを配置	30席
ティーンエイジスペース余裕度				
グループ学習室				25席
地域資料・参考資料スペース			3段書架を配置 (20冊/段)	13,000冊
地域資料・参考資料スペース			閲覧机 (通路幅1200mmで配置)、スツールを配置	40席
地域資料・参考資料スペース余裕度				
視聴覚資料スペース			4段書架を配置 (50本/段)	3,500点
視聴覚スペース			一般的なPCブースを使用	10席
視聴覚スペース余裕度				
雑誌コーナー			雑誌 (バックナンバー含む)	160誌
新聞コーナー			新聞 (バックナンバー含む)	20紙
ブラウジングスペース			ラウンジスペースとして活用	30人
ブラウジングスペース余裕度				
展示コーナー				
展示コーナー(郷土資料)				
予約本コーナー			2500冊程度	
対面朗読室				
学習室				80席
サービスカウンター				6人
一般図書ゾーン計		1,800 m ²		105,000冊
②こども図書ゾーン				
検索端末台				1台
自動貸出機				1台
自動返却機				1台
児童開架スペース			3段書架を配置 (45冊/段)	58,000冊
児童閲覧スペース			円形テーブル・傾斜読書台を通路幅1200mmで配置	50席
視聴覚資料スペース			4段書架を配置 (50本/段)	1,500点
視聴覚スペース			一般的なPCブースを使用	10席
視聴覚スペース余裕度				
おはなし室			絨毯敷きで座って話を聞くことを想定	40人
託児スペース			託児一人あたり3.3m ² を想定	15人
サービスカウンター				3人
児童スペース余裕度				
こども図書ゾーン計		850 m ²		58,000冊
開架エリア合計 (①+②)		2,650 m²		
③ボックススペース等				
事務室				20人
会議室等			会議室、休憩室、ロッカー等	
閉架書庫スペース			通路幅900mmで6段の移動式書架を配置	170,000冊
作業スペース			書庫の20%	
ボックススペース余裕度				
移動図書館駐車場・倉庫				
全体の余裕度			廊下、階段、EV、トイレ等	
ボックススペース等計		1,350 m ²		170,000冊
図書館エリア合計 (①+②+③)		4,000 m²		333,000冊
④生涯学習センター機能				
小ホール (元視聴覚室)			プラネタリウム、映画館としても活用	150席
ホール控室				
第1多目的室 (元第1会議室)				100席
第2多目的室 (元第2会議室)			ワークショップスペースとしても活用	30席
第3多目的室 (元第1研修室)				30席
第4多目的室 (元第2研修室)				30席
第1和室				30席
第2和室				30席
美術工芸室				30席
展示兼トレーニング室				40人
生涯学習センター余裕度				
生涯学習センター合計		1,400 m²		
図書館+生涯学習センター合計		5,400 m²		
⑤その他				
カフェ・ショップ		250 m ²		
音楽スタジオ		40 m ²		
印刷等創作室 (前回ファブスペース)		20 m ²	印刷機やその他工作機器を配置	
PC創作ルーム (前回ファブスペース)		30 m ²	画像編集ソフトなどを備えたPC個室	
キッチンスペース		50 m ²		
コワーキングスペース		0 m ²	一般閲覧室に統合	
ラウンジスペース		0 m ²	ブラウジングスペースに融合	
キッズスペース		50 m ²	屋外遊具と合わせ検討	
ワークショップスペース		0 m ²	多目的室のいずれかに統合	
ギャラリー		100 m ²		
ブレイルーム		50 m ²		
足湯		0 m ²	屋外施設として今後検討	
ベツトスペース		0 m ²	屋外施設として今後検討	
プラネタリウム		0 m ²	小ホールに統合	
映画館		0 m ²	小ホールに統合	
体育館		0 m ²	施設屋外として今後検討	
博物館スペース		0 m ²	ギャラリー、地域資料参考スペースに統合	
備蓄庫		50 m ²		
その他余裕度		160 m ²		
その他ゾーン計		800 m ²		
総合計面積		6,200 m²		

※赤字はWSで出た新たな機能

※青字はWSでも必要であると意見のあった機能

※庭、広場などは施設外のため面積に加えていません

➤ ③各スペースを多目的に活用した案 5,300㎡

構成部分	スペース	算定根拠
①一般図書ゾーン		
検索端末台		8台
自動貸出機		9台
自動返却機		3台
一般開架スペース	4段書架を配置 (35冊/段)	82,000冊
一般閲覧スペース	閲覧机 (通路幅1200mmで配置)、スツールを配置	80席
一般開架余裕度		
ティーンエイジ資料スペース	書架間隔1,800mm4段を配置 (35冊/段)	10,000冊
ティーンエイジ閲覧スペース	閲覧机 (通路幅1200mmで配置)、スツールを配置	30席
ティーンエイジスペース余裕度		
グループ学習室		25席
地域資料・参考資料スペース	4段書架を配置 (20冊/段)	10,000冊
地域資料・参考資料スペース	閲覧机 (通路幅1200mmで配置)、スツールを配置	40席
地域資料・参考資料スペース余裕度		
視聴覚資料スペース	4段書架を配置 (50本/段)	3,500点
視聴覚スペース	一般的なPCブースを使用	10席
視聴覚スペース余裕度		
雑誌コーナー	雑誌 (バックナンバー含む)	160誌
新聞コーナー	新聞 (バックナンバー含む)	20紙
ブラウジングスペース	ラウンジスペースとして活用	30人
ブラウジングスペース余裕度		
展示コーナー		
展示コーナー(郷土資料)		
予約本コーナー	2500冊程度	
対面朗読室		
学習室		80席
サービスカウンター		6人
一般図書ゾーン計	1,600㎡	102,000冊
②こども図書ゾーン		
検索端末台		1台
自動貸出機		1台
自動返却機		1台
児童開架スペース	3段書架を配置 (45冊/段)	58,000冊
児童閲覧スペース	円形テーブル・傾斜読書台を通路幅1200mmで配置	50席
視聴覚資料スペース	4段書架を配置 (50本/段)	1,500点
視聴覚スペース	一般的なPCブースを使用	10席
視聴覚スペース余裕度		
おはなし室	絨毯敷きで座って話を聞くことを想定	40人
託児スペース	託児一人あたり3.3㎡を想定	15人
サービスカウンター		3人
児童スペース余裕度		
こども図書ゾーン計	850㎡	58,000冊
開架エリア合計 (①+②)	2,450㎡	
③ボックススペース等		
事務室		20人
会議室等	会議室、休憩室、ロッカー等	
閉架書庫スペース	通路幅900mmで6段の移動式書架を配置	173,000冊
作業スペース	書庫の20%	
ボックススペース余裕度		
移動図書館駐車場・倉庫		
全体の余裕度	廊下、階段、EV、トイレ等	
ボックススペース等計	1,300㎡	173,000冊
図書館エリア合計 (①+②+③)	3,750㎡	333,000冊
④生涯学習センター機能		
小ホール (元視聴覚室)	プラネタリウム、映画館としても活用	80席
ホール控室		
第1多目的室 (元第1会議室)		100席
第2多目的室 (元第2会議室)	ワークショップスペースとしても活用	30席
第3多目的室 (元第1研修室)		30席
第4多目的室 (元第2研修室)		30席
第1和室		30席
第2和室		30席
美術工芸室		30席
展示兼トレーニング室		40人
生涯学習センター余裕度		
生涯学習センター合計	1,100㎡	
図書館+生涯学習センター合計	4,850㎡	
⑤その他		
カフェ・ショップ		150㎡
音楽スタジオ		40㎡
印刷等創作室 (前回ファブスペース)		0㎡
PC創作ルーム (前回ファブスペース)		0㎡
キッチンスペース		30㎡
コワーキングスペース		0㎡
ラウンジスペース		0㎡
キッズスペース		0㎡
ワークショップスペース		0㎡
ギャラリー		50㎡
ブレイルーム		50㎡
足湯		0㎡
ベットのスペース		0㎡
プラネタリウム		0㎡
映画館		0㎡
体育館		0㎡
博物館スペース		0㎡
備蓄庫		30㎡
その他余裕度		100㎡
その他ゾーン計	450㎡	
総合計面積	5,300㎡	

※赤字はWSで出た新たな機能

※青字はWSでも必要であると意見のあった機能

※庭、広場などは施設外のため面積に加えていません

(3) 3 パターンのメリット・デメリット

さらに検討の参考として、前項の3パターンのメリット、デメリットを検証します。

- ① 新たなスペースをすべて入れ込んだ案は、延床面積が3パターンのうち最も大きくなります。スペースがそれぞれ独立して存在しているため、図書館スペース、生涯学習センタースペース、新たなスペースの融合性は低くなり、また今後の建設工事費や維持管理費用は最も大きくなることが想定されます。
- ② 新たなスペースを図書館、生涯学習センターと融合した案は、機能的に近しいスペースを整理し、それぞれのスペースの融合化を図ります。
- ③ 各スペースを多目的に活用した案は、図書館スペース、生涯学習センタースペース、新たなスペースの融合度合いがさらに高く、その後の建設工事費や維持管理費用は最小限に抑えることができます。

表 2-23 パターンのメリット・デメリット比較

	延床面積	建設費	維持費用	融合性*	座席数
①新たなスペースをすべて入れ込んだ案	7,500㎡	△	△	△	○
②新たなスペースを図書館・生涯学習センターと融合した案	6,200㎡	○	○	○	○
③各スペースを多目的に活用した案	5,300㎡	◎	◎	○	△

*「融合性」とは、図書館・生涯学習センターの融合度合いを指します。

3 ゾーニングの検討

3-1 ゾーニングの考え方

ゾーニングを検討するにあたり、第2回市民ワークショップなどで出た意見を参考に、静かなスペースと動のスペースを切り分けながらも、用途によって繋がりのあるものとします。特にワークショップにおいては市民の活動的な場への要望が多く、本来の図書館スペースと活動的なスペースをうまく融合し、かつ生涯学習センタースペースも活用していく方向で検討していきます。

また今後、十分な駐車台数の確保やワークショップでも意見のあった屋外利用なども踏まえ、ワンフロアが1,000㎡～1,500㎡前後となるよう調整した場合、全体面積を最大でも7,500㎡以下とすると、4～5階程度のフロアになることが想定されます。

さらに建設予定地は津波浸水想定地域（0.3m～2m）、洪水浸水想定地域（1.0m～5.0m）であるため、貴重な資料等を極力被害から避けるための方策が必要となります。そのことを踏まえると、1階部分には貴重な資料などは配置せず、交流機能のような動的な機能であることが望ましいと考えます。

そして2階以上については上階に上がるほど、静寂なフロアとするなどが考えられますが、どの階にどのフロアを並べるかについては今後も検討を深めていく必要があります。

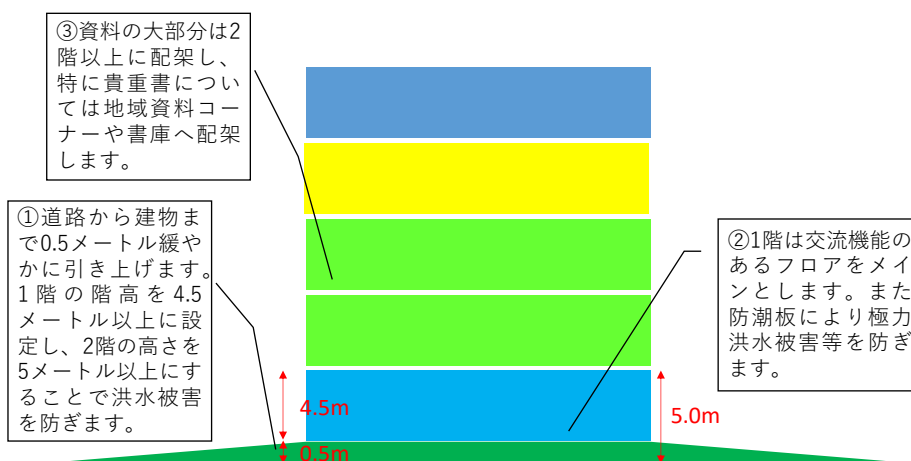


図 3-1 防災の観点からの方策（案）

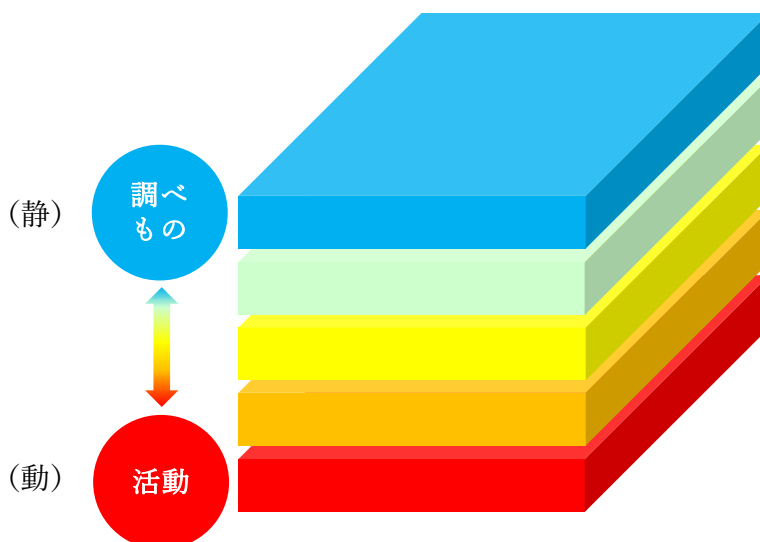


図 3-2 フロアごとのつながり（案）

3-2 各フロアのゾーニング案

スペースのつながりやフロアごとの面積ボリュームを考えながら、切り分けていきます。現時点で大きく以下の5つのフロア構成が検討されます。前項の②新たなスペースを図書館・生涯学習センターと融合した案6,200㎡をベースとし、下記にその内容案を記載いたします。

➤ ①交流機能を有するフロア（案）

交流機能を有するフロアでは、音楽スタジオや印刷等創作室、動画や画像の編集ソフトなどが入ったPCのあるコワーキングスペースなど利用者が創作に自由に使うことのできるスペースと各分野のスペシャリストと創作活動のできるワークショップスペースやラウンジスペースなど利用者同士で自由に交流のできるスペースを設けます。双方につながりを持ったゾーニングにすることで、互いの活動を活発化できるつくりを目指します。また、読書や作業のリフレッシュができるカフェや市民が作成した同人誌等を販売するショップ、イベント用の小ホールなどを設けます。

さらに、音楽スタジオ付近には音楽関連本、ギャラリー付近にはアート、デザイン関連の本や絵本、創作室やコワーキングスペース付近には創作関連本を置くなど図書館機能との連続性を持たせ、利用者の創作・交流の活発化を図ります。移動図書館「ともだち号」の駐車場・倉庫もこのフロアに配置します。

防災の観点からこのフロアが1階に配置されることが想定されます。そこで屋外も活用し、テラスや足湯、スポーツに使えるエリアを設けます。

<設置を想定するスペース>（案）

・ワークショップスペース（第2多目的室）	・音楽スタジオ	・（書架）音楽関連本
・小ホール（映画館・プラネタリウム）	・カフェ・ショップ	・印刷等創作室
・PC創作ルーム	・コワーキングスペース	・（書架）創作関連本
・（書架）アート・デザイン関連本、絵本	・ギャラリー	・ラウンジスペース
・美術工芸室	・情報発信交流スペース	・予約本コーナー
・移動図書館駐車場	・（屋外）テラス・足湯・スポーツ屋外施設	

- ① 新たなスペースをすべて入れ込んだ案の場合：上記に加え、小ホールとは別に同フロアに映画館、児童コーナーにプラネタリウムを設置します。
- ③ 各スペースを多目的に活用した案の場合：児童コーナーにあった児童遊具などを屋外に移設します。美術工芸室と印刷等創作室、PC創作ルームが統合されます。

➤ ②ティーンズコーナー機能、生涯学習センター機能を有するフロア（案）

ティーンズコーナー機能を有するフロアとして、ティーン専用のエリアを設けます。ここでは、ティーンエイジ資料を配架し、閲覧室、グループ学習室、ボードゲームなど青少年の娯楽コーナーとなるプレイルームを周辺に設け、つながりを持たせます。配架については、アートなしつらえにするなど工夫されたものにします。また、同フロアに多目的室、和室、トレーニング室など生涯学習関連のスペースを設け、生涯学習センター機能を付与することで、大人も活動できる生涯学習センター機能を有するフロアにし、青少年から大人までが活発に活動できるフロアを目指します。

さらにティーンエイジ視聴覚資料コーナー、一般学習室も設けることで多様な要望に応えられるフロア構成を目指します。

<設置を想定するスペース> (案)

・学習室	・ティーン閲覧	・(書架)ティーン資料
・プレイルーム	・グループ学習室	・視聴覚資料コーナー
・トレーニング室	・第1多目的室	・第3多目的室
・第4多目的室	・第1和室	・第2和室

- ① 新たなスペースをすべて入れ込んだ案の場合：プレイルーム近くに体育館を配置し、つながりを持たせます。また、交流機能を有するフロアの印刷等創作室とは別に美術工芸室を設けます。

➤ ③児童コーナー機能を有するフロア (案)

児童コーナー機能を有するフロアでは、児童書コーナーや閲覧室、おはなし室といった従来の児童コーナーだけでなく、託児室や遊具などがあるキッズスペース、児童視聴覚資料コーナーを設けることで更なる機能拡充を目指します。児童コーナーでは、子どもたちに図書館マナーを教えるオリエンテーリングも開催します。また、親も共に過ごせるフロアとして、子育てや料理などを扱った一般図書も近くに配架します。

<設置を想定するスペース> (案)

・キッズスペース	・児童閲覧室	・(書架)児童書
・おはなし室	・児童視聴覚コーナー	・託児室
・(書架)一般 子育て	・キッチンスペース	・(書架)一般 料理等

- ③ 各スペースを多目的に活用した案の場合：屋外にキッズスペースを設けます。

➤ ④伊東市情報センター機能を有するフロア (案)

伊東市情報センター機能を有するフロアでは、地域資料・参考資料を配架し、周辺に閲覧室やレファレンスカウンターを設けます。地域資料については、伊豆半島全体の郷土資料や伊東市を舞台にした作品なども収集、公開し、タブレットの貸出により電子書籍の閲覧ができるようにします。また、郷土に関する展示室を近くに設けることで、資料と展示の両側面からより深く伊東市について知ることができます。

その他、新聞・雑誌コーナー、対面朗読室、バックスペースを設けます。

<設置を想定するスペース> (案)

・地域資料閲覧室	・レファレンスカウンター	・郷土資料展示コーナー
・対面朗読室	(書架)新聞・雑誌コーナー	・(書架)地域資料・参考資料
・バックスペース(事務室、書庫、備蓄庫)		

- ① 新たなスペースをすべて入れ込んだ案の場合：郷土資料展示コーナーに隣接し、博物館スペースを配置します。

➤ ⑤一般コーナー機能を有するフロア (案)

一般コーナー機能を有するフロアでは、一般書を中心に配架し、利用者がくつろぐことができる、ゆとりのある閲覧席を設けます。また、配架については利用者が普段出会わないような新たな本と出会えるしつらえにし、タブレットの貸出による電子書籍の閲覧ができるようにします。一般コーナーの一部には、健康や心の悩みに関するコーナーを設け、相談カウンターも設置します。

さらに、図書を使って調べものなどができるよう、学習室を同フロアに設けます。

<設置を想定するスペース> (案)

・一般閲覧室	・(書架)一般書	・学習室
--------	----------	------